

諫早市教育委員会議事録
令和4年第6回（5月定例）

令和4年第6回（5月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和4年5月25日（水）
14時00分～15時00分
- 2 場 所 諫早図書館 2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 後田 一光
教育総務課長 江頭 大一
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 諸岡 昌史
- 5 議題
報告第5号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委
嘱について）
議案第11号 諫早市少年センター運営協議会委員の委嘱につい
て
議案第12号 全国学力・学習状況調査結果の取扱いについて

1 4 時 0 0 分 開 会

議事録署名人の指名

原田委員と山口委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

報告第5号及び議案第11号については人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和4年第5回（4月定例）教育委員会の議事録について
原田委員及び前宮本委員から自身の発言について修正の意見あり
一部修正を了承の上可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

教育委員会の5月の動きについて

今年のテーマは挑戦と創造である。

まず、新型コロナウイルス感染予防対策ということで罹患状況についてであるが、学校では懸命に防止対策を講じており、最近は横ばい傾向で、諫早市小中学校全体では毎日10名から15名である。現在、学級閉鎖をしている学校は、1校から2校といったところである。

学校では、毎朝の検温、給食における黙食、手洗い、消毒、換気及びマスク着用などの対策をしている。

体育の授業ではマスクは不要であるという政府の方針が一昨日出ており、文科省からいろいろな通知が来ると思う。通知があれば学校の方にもお知らせしたいと思う。緩和の動きがあり、戸外で、又

は体育館の中で活動する分にはマスクは不要となっているようである。

4月から5月にかけての学年別罹患状況について、今年の4月1日から5月23日までの在籍者数分の罹患者で割合を出してみている。小学生は1・2年生が3.9%、3・4年生が4.0%、5・6年生が3.9%、全体が3.9%。中学生は1・2年生が2.7%、3年生が4.0%、全体が3.1%となっている。

昨年1年間を通して見た場合、小学校は5・6年生、中学校は3年生が少なかったが、今年4月から5月にかけては、何年生がということはあまりない感じがする。中学校3年生が4%というのは、中体連前の練習や大会等によるものである。

続いて、児童生徒数と学級数であるが、5月1日現在で昨年の5月1日と比べている。まず、諫早市の小学生であるが7,408人である。昨年度に比べて85人減っている。ただし、学級数は350で、8学級増えている。増えている理由は、国の学級編制基準の変更によるもので、年次ごとに35人学級が、1年生、2年生ときて、今年度3年生に35人学級が適用された。そのため、子どもの数は減っているのに学級数は増えている。

中学生は3,576人で、昨年に比べて140人増えている。学級数は143の3学級増である。

今後の傾向であるが、小学生は減っていくことが予想されている。中学生はしばらく横ばいで推移する。

子どもを増やす政策ということで、市の施策として子育て支援が必要だと思う。教育分野においては、どの学校で学んでも安心、充実した教育が展開される、そのような信頼を得ることが大事なことで、4月に発足した学校改革準備室において、諫早市の学校教育のあり方など、明るい展望を持って多角的・俯瞰的に調査研究を行っている。

つまり、全ての学校を視野に入れ、適正規模、適正配置という観点から、暗い話題にならないよう、明るい展望を描けるような教育のあり方を研究している。

統廃合、小中一貫校、義務教育学校などについて考えながら、何といっても学びの質の保証や地域の活性化という視点も忘れないようにしなければいけないと思っている。

それから、中1ギャップの解消であるが、小学校から中学校に上がるときに非常に違和感があるとのこと。小学校は全教科を教える担任がいるが、中学校になると教科の担任制などにより、不登校になるといった問題もあるので、研究を行い諫早から中1ギャップや

不登校がなくなるような努力をしていかなければいけないと考えている。

3 番目に、運動会、体育大会であるが、中学校は5月15日に14校全部実施され、非常に良かったと聞いている。小学校は5月22日と29日、それと9月から10月にかけて行われる。今のところ、5月に3分の2が終わり、秋に3分の1の小学校が運動会を行うということである。

次に、諫早市の教育の4本柱について。「豊かな人間教育」ということで、挨拶をしましょう、哀れにいたわしく思う心、惻隱の情を磨きましょう、人権意識を高めましょう、ということである。

「確かな学力の向上」、これが一番の重点目標で、今各学校を訪問しているけれども、どこの学校も学力の向上を念頭に授業を充実させていきたいと考えている。

そして、「ICT教育の推進」であるが、諫早市は他市に先駆けてデジタル教科書を導入している。大型提示装置は学力向上に繋がるものである。6月以降、学校ごとにタブレットを持って帰って良い、又は家庭で自宅にあるパソコンなどから、宿題等をクラウドに取りに行くことを開始して良いとしている、6月1日から始めるところもあれば、7月からとか夏休みからとか、保護者の承認などもあるので、環境が整った学校から始めることとしている。

「働き方改革」であるが、諫早版働き方改革を実行してもらう。今、教員が足りない。なぜ教員が足りないかというと、教員のなり手が少ないという非常に大きな問題があり、そのための働き方改革でもあるので、待ったなしに実行しなければいけない。

そして、不祥事の根絶、本当に一部の教職員だけれども、体罰や酒気帯び運転など責任が問われるので、各学校の中で研修を行っていく。

それから、郷土愛の育成、ふるさとを愛し誇りに思う心を育てるということで、全ての学校に郷土愛を育む教育のプログラム作成、展開をお願いしている。県ではふるさとの新たな魅力創出会議を立ち上げられ、7市町9校が指定を受けている。9校のうち3校は諫早市の中学校が指定を受けている。

英語教育の充実について、ALTの活用ということであるが、今9人アメリカから来てもらっている。今までで一番多い数である。熱心にされており、全ての小・中学校に配置している。子どもたちはALTのことが大好きで、特に小学校では彼らが来るのを待っているという状況である。また、中3の英検3級以上の割合が全国と県が出ており、全国が47%、長崎県も47%。それに対して、諫

早市は42.1%と下回っているが、その要因としては受験者が少ないことがある。3級から受験料が大幅に上がるということで、それを補填している市町もあると聞いているので、検討したいと思う。

8番目、諫早市総合防災訓練が5月15日に本明川の河川敷であり、激甚災害を想定しての市、県、国土交通省が参加した大がかりな防災訓練であった。最近、激甚災害や大雨、地震、火災などが起こっている。学校においても、常に頭の中に入れておかなければならず、火災避難訓練は各学校で行っているが、それだけではなく地震や土砂災害などいろいろな防災教育を行い、危険予知能力を高めるといった教育を展開しなければいけない。火砕流、又は地震といった大震災等もあっているのです、そういうことも視野に入れた訓練も必要かなと思う。私の報告は以上である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

英検のことが出たが、教員のスキルアップの件である。新聞によれば、中学校の英語の先生に対して、英検の準1級をスキルアップの目標として掲げてあり、それが多分全国で40%ぐらいという話であった。県、諫早市ではどのくらいか把握されているのか。

[教育長]

私が聞いたところでは、16%だったと思う。

[委員]

以前、視察研修へ行ったときに、松戸が6割を超えていて浦和が7割という話であったが、松戸には外国人がたくさん住んでいるということで、早急に住民の英語力アップが必要であったと聞いている。ただし、非常にお金をかけていて、中学校の先生何人かを2年間オーストラリアに研修に行かせて、その先生をリーダーとしてテレビの語学講座や予備校などの先生を入れて教科書を作っている。小学校から英語をしておかないと平均が取れないという話で、小学校の先生たちの負担になっている。だから、そのための教えるテキストを作った、ということである。

従って、文科省のように英検についての数字を並べられても、かける金額も地域によって全然違う。地方は大変だなと思うのだけれども、やはり啓蒙だけはしていかなないと、ボトムアップしていかないといけないなと思うので、お願いしたい。

[教育長]

英検の3級は、履歴書や調査書などにも書くことができる。そういった面では、本人にとっても3級以上を取ることは非常に意味が

あるので、考えていかないといけない。

[委員]

2 番の学級数の増加のことについてであるが、3 年生が国の基準で 35 人学級になったということが原因とのことだが、特別支援学級数の増加も関係しているのかが 1 点目。それと 2 点目は、学校改革準備室のことであるが、統廃合のことだけではなくて、多角的に、俯瞰的にいろいろなことを研究されていて素晴らしいと思う。その中で不登校対策も研究を行っているとのことだが、まだ短い期間ではあるけれども、どのような点、どのようなデータに着目して研究されているのか分かれば教えてもらいたい。

[教育長]

現に不登校になっている子どもたちについて分析している。どうして不登校になっているのか、ということを少年センターが研究されており、その少年センターから学校改革準備室に三井先生が来ているので、そういうところも含めて検討している。

小学校から中学校までずっと同じメンバーだと序列がはっきり決まってしまう、はい上がれず諦めてしまうというようなことがあると聞いている。大きいことが良いとは思っていないが、大きい集団の中ではいろいろな人がいて、自分と気が合わない人もいるが、気が合う人もいるかもしれない。そういうところも研究する必要があると思う。

中 1 ギャップの解消と年々増加している不登校対策については、改革準備室から入れてほしいとのことであつたので、そういうことも研究して頂いている。

[委員]

確かに、三井先生は少年センターで 2 年ほど勤務され、いろいろな学校を回ってこられて、たくさんの見識をお持ちであると思うので良い研究をされているなと思う。

[学校教育課長]

特別支援学級の件について、きちんとしたデータが今はないが、昨年度と今年を確認したときには、特別支援学級に所属する知的障害、情緒障害の子は増えてはいるが、学級数は 1 人いても 1 学級、2 人、3 人となっても 1 学級なので、学級数は微増ぐらいである。児童生徒は若干減っている。

[委員]

あと 1 点、6 番のところで教育プログラムを作成とあるが、従来から多分郷土愛の育成のプログラムがあつたと思うが、それと何か違うのか。

[教育長]

それを引き継いでいる。

[委員]

4本柱ということで、諫早版働き方改革については、教育委員会の中でも部活の顧問の話や5時間授業で、学校に残る先生の負担を減らすことなど、いろいろ改革のことは伺っている。

私のところは保育園で、ご存知だと思うが保育士不足の問題があり、養成校に行くのだが、資格だけ取って現場には入らない。それはなぜかと言うと、他業種に比べて保育園保育士、幼稚園教諭は給料が少なかった。養成校にいろいろアンケートがとられており、理由は具体的にわかっている。そのため国も動いてくれて、処遇改善が6年、7年ぐらい前から始まって、なり手が少し上向きになってきている。だから、保育士はそこが一番大きかったと思うのだが、しっかりとポイントを見定めて、教育を扱う学校と連携をとってもらいたい。

保育士の資格を持っていたら就職にも有利だったり、教員免許を持っていたら教員にならなくても塾の講師ができたり、いろいろあると思うが、優秀な人が教師をやりたいと来てくれるような働き方改革をしてほしい。現場の方々は大変だと思うが、いろいろ情報を集めて進めていただきたい。

[教育長]

今人手不足で先生が足りない。例えば、少人数や、初任者が多いところは加配があるのだが、それをまだ当てきっていないというところもある。免許を持っている人はたくさんいるのだろうけど、声かけても断られる。私が今思っているのは、管理職を中心に定年退職をする人に、定年退職で終わらないで、まだしばらく働いてもらうように言わなければいけない。

[学校教育課長]

言われたように、本当に足りない。あと1人いればというときに、県も予算を持っているのだけれど人がいないので使えない。病休であるとか産休であるとかそういう時のための人員もいるので、それにプラスアルファがなかなか難しいという現状にある。

もしかしたら、先ほど言われた教員になぜならないのだろうかということも、なかなか手がないということが噂で回っていたりするのではないかと思う。

[教育長]

もう一つ、スクールソーシャルワーカーであるが、県の配置で諫早市は1名である。スクールソーシャルワーカー1名に対して、学

校は42校あるので、もう少し増やしてほしいということや、この人を雇ってほしいというような働きかけもいると思う。その発掘については、鎮西学院大学に社会福祉学科があるので、連携しながら進めていく必要がある。

《議題》

議案第12号 全国学力・学習状況調査結果の取扱いについて
学校教育課長 説明

《学校教育課長の説明に対する質問・意見》

[委員]

過去のデータとの比較は出るのか。

[学校教育課長]

その前の年との比較は載せている。そのままの平均正答率ではなく、前よりもプラスマイナスでどれぐらいであったというところで比較をしている。

[委員]

確か宮本先生がその件について提案されたのが、グラフ化してくれないかということだったと思う。ただ羅列して数字だけ上げられてもわかりにくいので、もしできればお願いしたいと思うが。

[学校教育課長]

検討する。

《生涯学習課長の報告》

令和4年度『少年の主張』諫早大会の開催について

《生涯学習課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《非公開議事》

報告第5号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委嘱について）

生涯学習課長 説明

削除

了承

議案第 11 号 諫早市少年センター運営協議会委員の委嘱について
生涯学習課長 説明
削除
原案可決

その他

教育総務課長
6 月定例教育委員会の日程について説明

15 時 00 分閉会